

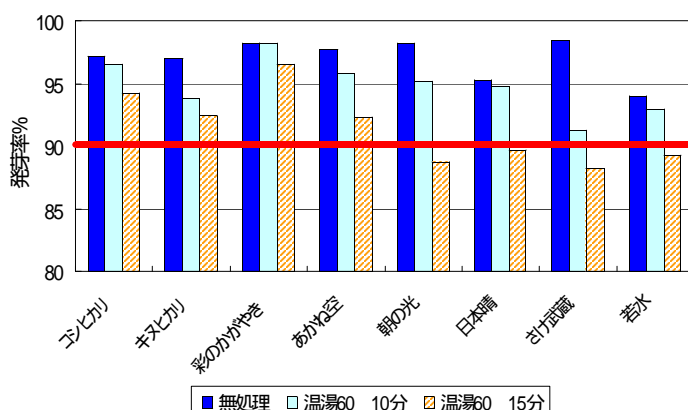
品種に応じた水稻種子の温湯消毒法

水稻種子を60℃で10～15分間温湯に浸漬する温湯消毒法は、農薬によらない技術として生産現場で広く行われています。しかし、品種によっては、発芽に影響することがあるので、本県の奨励品種について、安全な処理時間や取扱い方を明らかにしました。

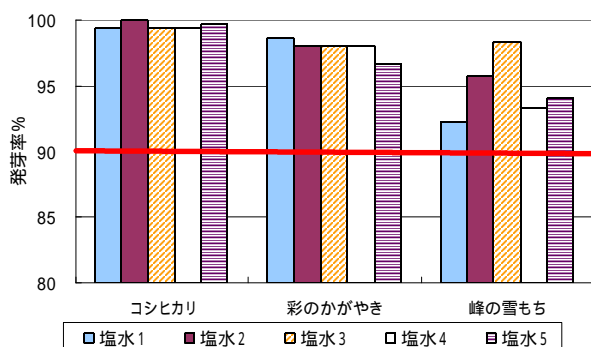
「朝の光」、「日本晴」、「さけ武蔵」、「若水」は、温湯処理時間を10分で止める必要があります。その他の本県奨励品種は15分浸漬でも発芽への影響はありません。温湯消毒前後の塩水選は発芽に悪影響を及ぼしません。温湯消毒の処理時間を守り、十分に乾燥すれば、3か月間保管しても発芽率に影響ありませんが、保管場所は冷暗所が安全です。



温湯消毒機

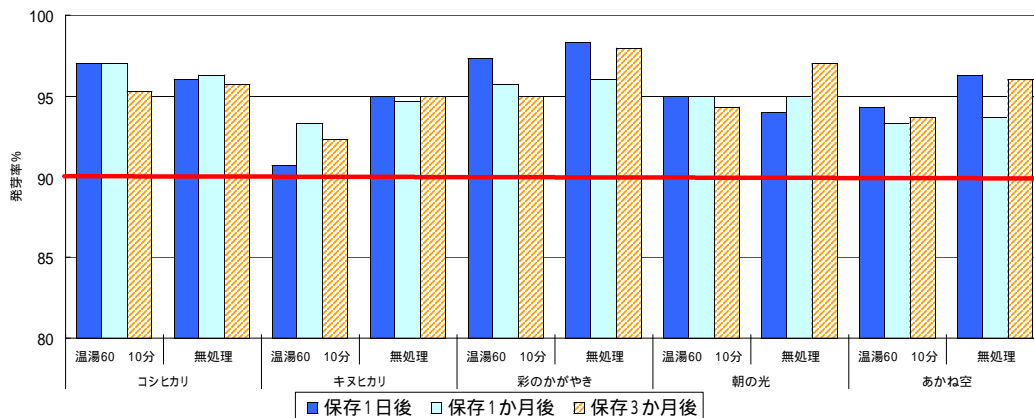


温湯浸漬時間が発芽に及ぼす影響



温湯処理と塩水選の組み合わせ方法
 塩水1：塩水選 乾燥 温湯（標準）
 塩水2：塩水選 濡れたまま 温湯
 塩水3：塩水選のみ（温湯なし）
 塩水4：温湯処理 乾燥 塩水選
 塩水5：温湯処理 濡れたまま 塩水選

塩水選と温湯処理の組み合わせが発芽に及ぼす影響（60℃、10分）



温湯処理後の保存期間が発芽に及ぼす影響（15℃、湿度30%の貯蔵庫で保管）

（水田農業研究所 米・麦担当 TEL 048-521-5041）